

一人一人を大切にした生活単元学習を進めるために

生徒指導・特別支援教育部 専門主事 浅川 浩

要約：構想から評価までを視野に入れ、見通しをもって生活単元学習を進めるため、「単元構想シート（単元終末までの構想を立てるためのシート）」「単元展開シート（単元初期から単元終末までの展開を考え、個々の児童生徒の活動のねらいを明確にするためのシート）」「単元評価シート（個々の児童生徒の活動を評価するためのシート）」以上3種類のシートを作成し、提案する。さらに、講座等でシート活用の演習を実施し、帰校後にこれらのシートに取り組んだ具体例の紹介や実際に取り組んでみてよかった点や今後に向けた改善点も紹介する。

（キーワード）

生活単元学習 単元構想 単元展開 単元評価 知的障害学級

I テーマ設定の理由

昨年度「小学校知的障害学級 基礎」「中学校特別支援学級 基礎」「生きる力を育む生活単元学習」3つのセンター研修講座では、受講者への講座事前アンケートを実施した。その中には、「生活単元学習は何をしたらよいか、どう進めたらよいか」「活動を進める中で、どのようにねらいを設定すればよいか分からない」「その場限りの計画しかできない」など生活単元学習についての悩みが多く寄せられた。

また講座の中で、校内の同僚や保護者に「楽しそうなことをしているが、どのようなねらいをもってやっているのか」「遊んでばかりいる」「クッキーばかり作っている」と言われたとき生活単元学習の意義や大切さをうまく説明できない、周囲から尋ねられると自分自身も生活単元学習の意義や大切さを理解していないのでどう答えたらよいのか困っている、などの悩みが聞かれた。

これらの研修講座は特別支援教育の基礎講座であり、「今年度初めて知的障害学級の担任になった」「講師であるが知的障害学級を担任することになりどうすればよいか分からない」など、知的障害学級の担任経験の少ない先生方が悩みを抱えて受講する場合が多かった。

そこで今年度は、3つの研修講座や「生活単元学習をつくる」という校内研修支援のメニューを通して、知的障害学級の担任経験の少ない先生方でも生活単元学習に見通しをもって取り組めるための手立てになる資料を作成、提案を考えた。そのことが先生方の悩み等の解決につながり、またプロジェクト研究のテーマ「一人一人を大切にする学校づくりをサポートするために」にもつながると考え本テーマを設定した。

II 研究の内容

1 生活単元学習を進めるための3種類のシート作成とシート活用のための資料作成

(1) 講座における生活単元学習に関するアンケートの実施

今年度は昨年度の反省を踏まえ、「小学校知的障害学級 基礎」「中学校特別支援学級 基礎」「特別支援学級の生活単元学習」の3つの講座の受講者に、生活単元学習を単元構想から評価まで進める中で、どのような点に悩んでいるかアンケートを実施し、以

下のような結果となった。

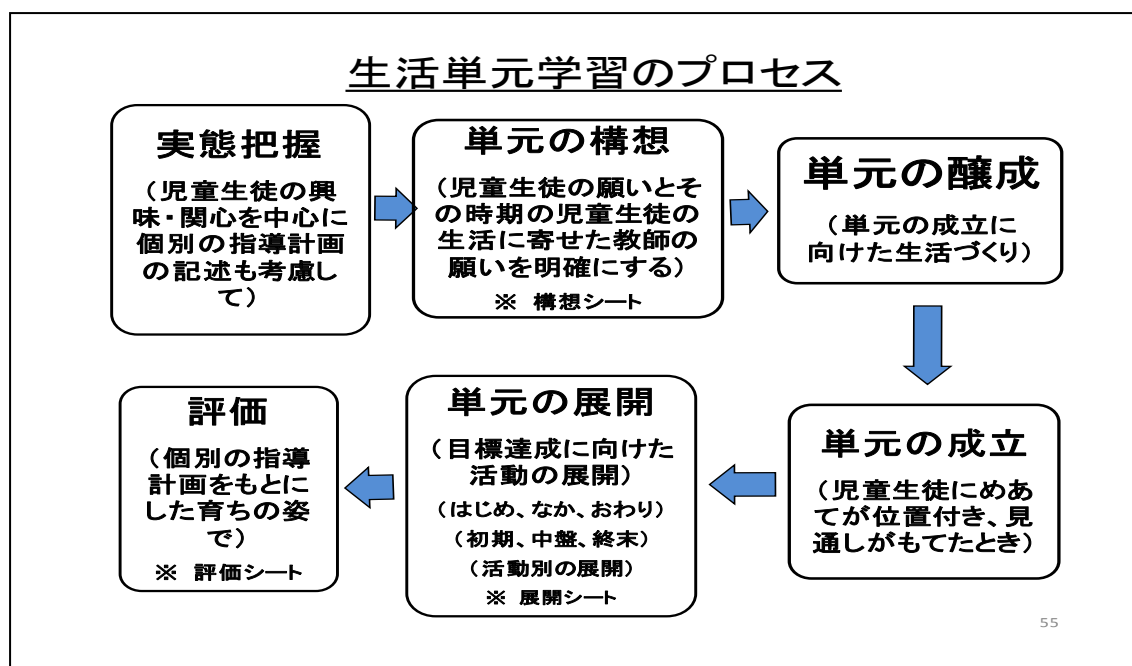
- ・「単元の構想」・・・全体の５７％の先生方が悩んでいる。
- ・「生活上の目標の決め出し」・・・全体の５０％
- ・「単元成立までの醸成の進め方」・・・全体の４６％

また、生活単元学習は特別支援学校学習指導要領解説（２００９年）に以下のように定義されている。

「生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである」

ここから、生活単元学習は「生活上の目標を定め、達成すること」「生活上の目標に沿って、その目標達成に必要な内容を、自然な流れで組織するもの」と言える。

以上の点を踏まえると、まずは生活上の目標を決め出し単元構想をすることが大切になる。そして、展開、評価まで下図の生活単元学習のプロセスに沿って見通しをもって取り組むことができるツールの提案の必要性を感じた。よって、生活単元学習を進めるための３種類のシートを作成した。

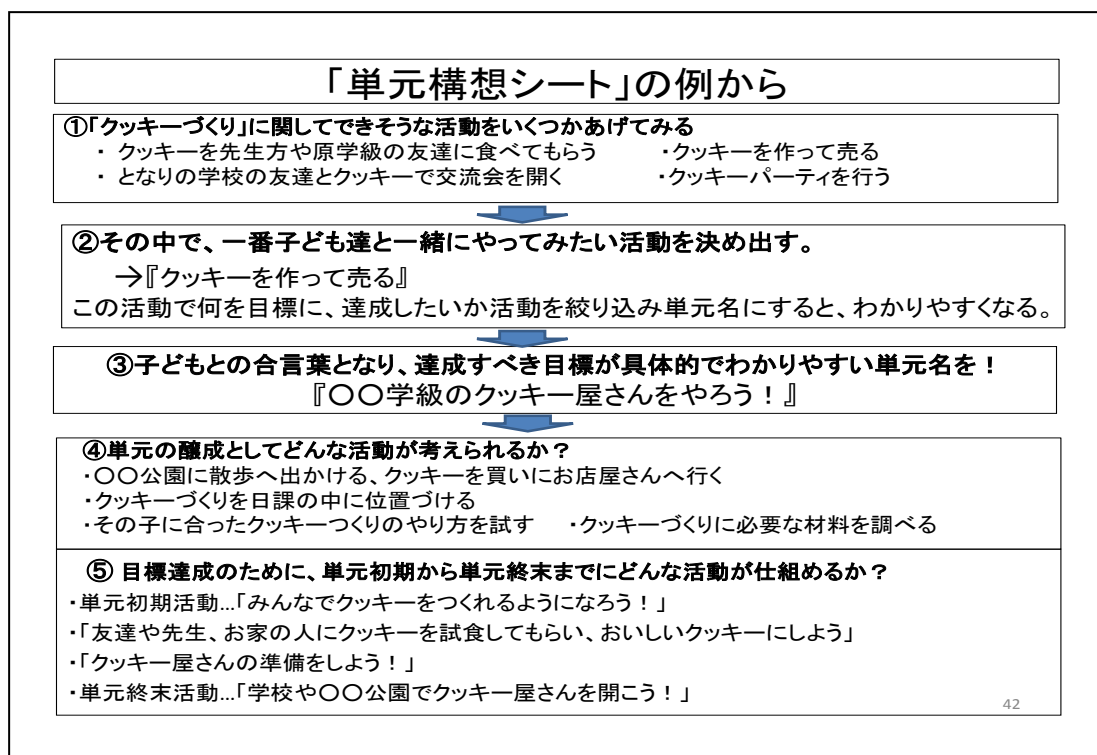


(2) ３種類のシートの特徴

単元構想から評価までを３つのシートで取り組めるように考えた。シートの種類とその特徴は以下の通りである。

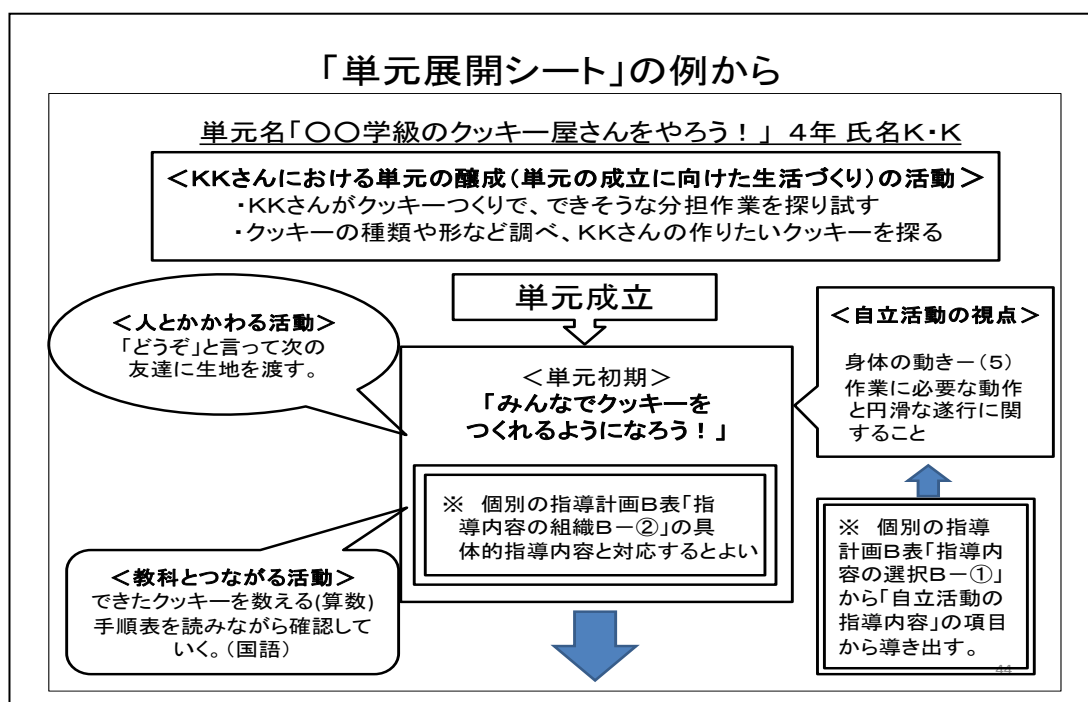
①「単元構想シート」

- ・生活上の目標や解決すべき課題を据え、その達成に向けた分かりやすい単元名を決め出すことができる。
- ・単元成立に向けた生活づくりで必要なことを決め出すことができる。
- ・目標の達成に向け、単元初期から終末までどのような活動が仕組めるか見通しを立てることができる。



②「単元展開シート」

- ・目標達成のために必要な活動内容を考え、単元展開に見通しをもつことができる。
- ・個々の児童生徒の初期から終末までの活動を、特に大切にしたい点を3つに絞ってねらいとした。その3つのねらい（教科とつながる活動、人とのかかわる活動、自立活動の視点）で児童生徒の姿を捉えるように考えた。
- ・個別の指導計画B表の内容と対応させたり、保護者に生活単元学習を説明したりするときに利用できる。



③「単元評価シート」

- ・単元展開シートで設定した活動及び3つのねらいに対応した評価できるので、目標と支援と評価の一体化が可能である。
- ・個別の指導計画B表の評価や通知表にも活用できる。

「単元 評価シート」の例から
単元名「〇〇学級のクッキー屋さんをやろう」 4年 氏名 KK

活 動	ね ら い	評 価
<単元初期> 「みんなで、クッキーをつくれるようになろう！」	教科：できたクッキーを数える(算数)	評価：10個入れるといっぱいになる箱へクッキーを入れながら、10のまとまりを意識してクッキーを数えることができた。
	教科：手順表を読みながら確認していく(国語)	評価：始めは教師と一緒に手順表を読みながら確認をしていたが、慣れてくると一人で手順表を読むことができた。
	人：「どうぞ」と言って次の友達に生地を渡す	評価：自分の分担、型ぬきができると、一つずつ「どうぞ」と大きな声でBさんへクッキーを手渡しすることができた。
	自立活動： 身体の動きー(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する こと	評価：クッキー生地を友達から受け取り、手で押さえて、型ぬきを真っ直ぐ生地におろして、きれいに型崩れしない生地の型ぬきの作業がスムーズにできた。

(3) 活用のための資料の作成のねらいと内容

3つのシートを活用するために必要な活用方法や注意点を盛り込んだ資料を作成した。
 作成資料の内容は以下のとおりである。

「シート活用のための資料」内容

- 1 生活単元学習とは？
- 2 生活単元学習のプロセス
- 3 実態把握の視点
- 4 生活上の目標（単元のテーマ）の考え方
- 5 題材例（小学校・中学校）
- 6 単元展開の工夫
- 7 シートの特徴
- 8 単元構想の例
- 9 単元展開の例
- 10 単元評価の例
- 11 達成すべき目標が分かりやすい単元名を考える
- 12 シートの活用方法

2 研修後のシートの活用例の紹介

「単元構想シート」「単元展開シート」「単元評価シート」に使う生活単元学習を実践したA小学校の事例を以下に紹介する。

①「単元構想シート」の実践から

①「サツマイモ」に関してできそうな活動をいくつかあげてみる

- ・昨年もやったスイートポテトで親子料理教室
- ・地域交流している養護学校の友達を呼んでサツマイモもちにしてパーティをする。
- ・お家の人を呼んで「やきいも会」をする

②その中で、一番子ども達と一緒にやってみたい活動を決め出す。

→『校庭で、お家の人とやきいも会をする』

この活動で何を目標に、達成したいか活動を絞り込み単元名にすると、わかりやすくなる。

③子どもとの合言葉となり、達成すべき目標が具体的でわかりやすい単元名を！

『たのしい やきいも会をしよう』

④単元の醸成としてどんな活動が考えられるか？

- ・折らずにサツマイモを掘り大きさを量る
- ・いつどこでやきいも会をやるか決める
- ・材木を分けてもらうお願い
- ・火を燃やすための材木の組み方を調べる

⑤ 目標達成のために、単元初期から単元終末までにどんな活動が仕組めるか？

- ・単元初期活動…「やきいもの作り方を調べてみよう」
- 「楽しいやきいも会にするためにどうしたらいいか考えよう」
- 「校庭でやきいもをするためのお願いの手紙を書いてあいさつに行く」
- ・単元終末活動…「学校の校庭で、楽しいやきいも会をしよう」

46

②「単元展開シート」の実践から

単元名「たのしいやきいも会をしよう」 5年 氏名A・A

＜A・Aさんにおける単元の醸成(単元の成立に向けた生活づくり)の活動＞

- ・根気強いもほりの作業に取り組む
- ・掘ったいもの重さを量る
- ・いつどこでやきいも会をやるか決める
- ・火を燃やすための材木の組み方を調べる

＜人とのかかわる活動＞
お家の人と一緒にやきいも会のことを思い出す。

＜教科とつながる活動＞
やきいもの作り方と準備するものをカードに書いて読む練習をして、発表する。友達の発表を聞く。
(国語)

＜人とのかかわる活動＞
やきいも会で校庭を貸してもらえよう頼みに行く。

＜教科とつながる活動＞
人をお願いするときの話し方について考え、練習を行う。
(国語)

単元成立

＜単元初期＞
「やきいもの作り方を調べてみよう」

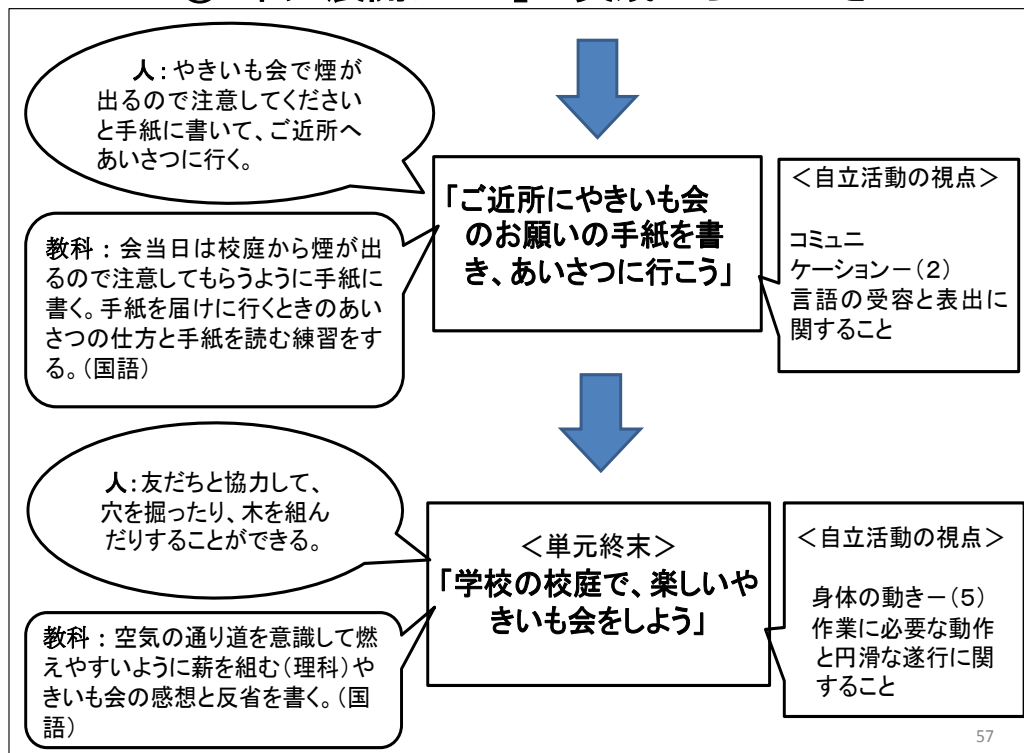
＜自立活動の視点＞
コミュニケーション(3)
言語の形成と活用に関すること

「楽しいやきいも会にするためにどうしたらいいか考えよう」

＜自立活動の視点＞
コミュニケーション(1)
コミュニケーションの基礎的能力に関すること

48

②「単元展開シート」の実践から つづき



③「単元 評価シート」の実践から

単元名「たのしいやきいも会をしよう」

5年 氏名 A・A

活 動	ね ら い	評 価
＜単元初期＞ 「やきいもの作り方について調べてみよう」	教科: やきいもの作り方と準備するものをカードに書いて読む練習をして発表する。友達の発表を聞く。(国語)	評価: お家の人に協力してもらい、地域でやったやきいも会の手順を思い出しながら、カードにやきいもの作り方を書くことができた。読むことは苦手だがみんなに発表ということで読む練習を3回やることができた。友達の発表を聞いて自分の知ってるやり方と違うところについて質問することができた。
	人とかかわり: お家の人と一緒にやきいも会のことを思い出す。	評価: お家の人に「今度、学級でやきいも会をするから、この前地域でやったやきいも会のやり方を教えてほしい」と伝えることができた。
	自立活動: コミュニケーション(3) 言語の形成と活用に関すること	評価: 文章を組み立てて書くことが少し苦しさはあるが、経験したことを基にしたことで、順序良く、やきいもの作り方を書くことができた。

③「単元 評価シート」の実践から つづき

<単元終末> 「学校の校庭で楽しいやきいも会をしよう」	教科： 空気の通り道を意識して燃えやすいように薪を組む（理科）	評価： 地域でのやきいも会を思い出しながら、火種のかんなくずを真ん中において、それをつぶさないように板状の木を組み合わせておくことができた。
	やきいも会の感想と反省を書く（国語）	やきいも会の感想では、「みんなと力を合わせてやることができてよかった。」 また、反省として「ご近所さんに勇気がなくて挨拶できなかった。」と自分の気持ちを素直に書くことができた。
	人とのかかわり： 友だちと協力して、穴を掘ったり、木を組んだりすることができる。	評価： 友だちの意見を聞きながら、木を組むことができた。
	自立活動： 身体の動き（5） 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	評価： スコップを使って、しっかりと穴を掘ることができた。木材運びや後片付けなど、しっかりとやることができた。

<単元に取り組んだA A児の姿から>

予想以上に大きいサツマイモが収穫できたこと、折らずに一生懸命に掘ったこと、地域でやったことがあるやきいも会をやることになったことなどから、A A児はとても意欲的に本単元を活動することができた。

また、単元終末の「スコップを使ってみんなと穴掘りをする姿」は、展開シートに設定された自立活動のねらいにつながる姿として評価シートに記述がされている。「友達の見聞を聞きながらみんなと薪を組む姿」は、展開シートに設定された人と関わる活動、理科に關した教科につながる活動の姿として評価シートにも記述されている。

本人は反省で、「ご近所さんへのあいさつがうまくできなかったことは、自分の手紙を読むことができなかったから自信がもてなかった」と後で語っていた。以前は文を読むことを嫌がり時には床にひっくりかえってしまうA A児だったが、本単元の後には詩の音読を頑張るやろうとする姿が見られるようになった。この単元を通して、日頃の姿が少しずつ変わってきている。

3 研修講座事後アンケートの実施とシート改善

(1) 単元構想シート活用後の事後アンケート結果から

<よかった点>

- ・例に習って活用することで、単元の流れが計画できた。
- ・順を追って考えながら記入して確認できる点がよかった。
- ・記入欄の①「〇〇に関してできそうな活動」がとても有効に活用できた。考え出した活動の中からできそうなものを選ぶことができた。
- ・その時期に合った活動の目安がついた。
- ・できそうな活動を書く中で、子どもたちと一番やってみたい活動が見えてきた。

- ・単元の流れが分かりやすくなり、特に単元終末をはっきりさせることができるので、つけた力がはっきりする。

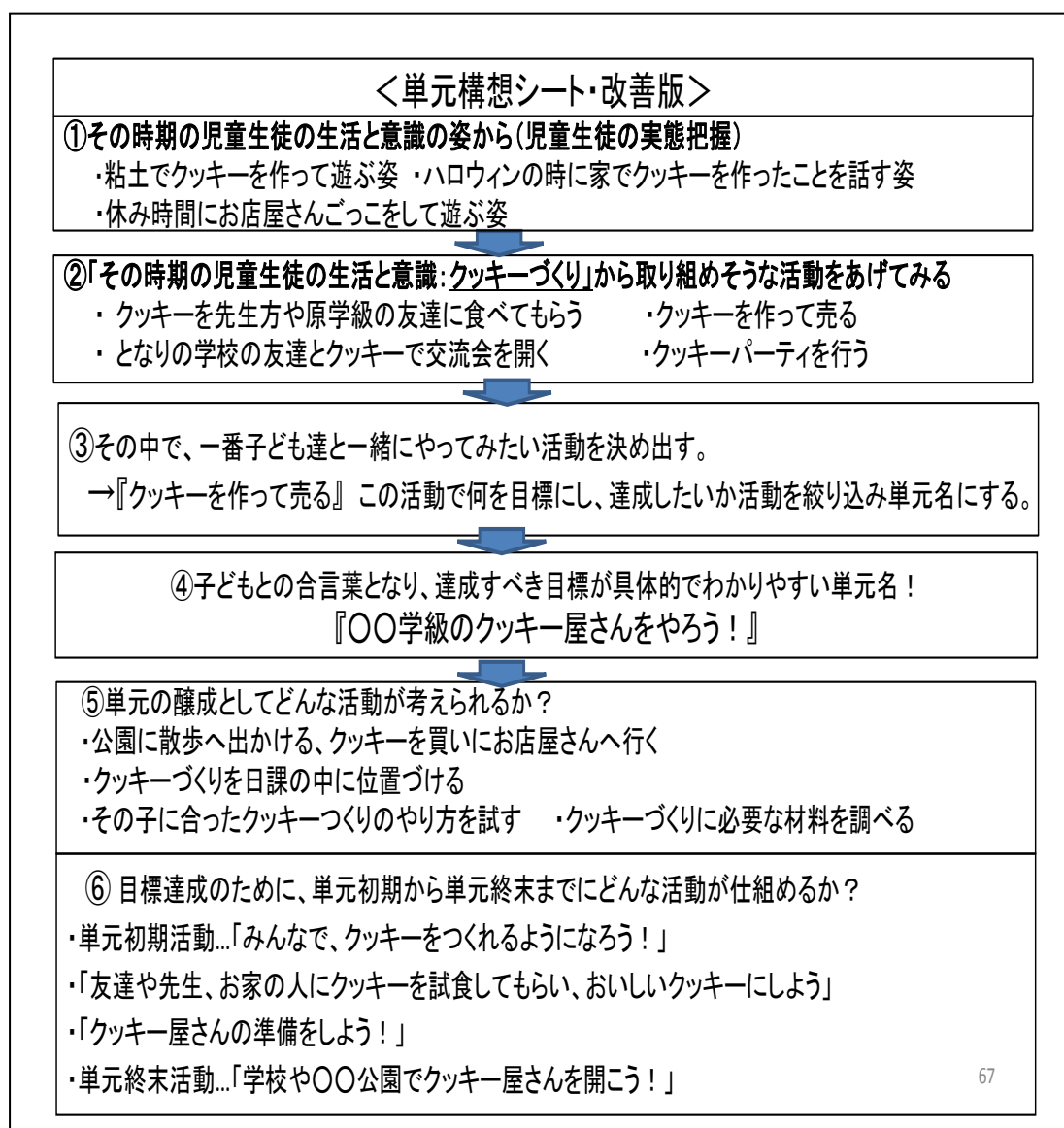
<課題，改善点>

- ・シートの始めに「その時期の児童生徒の生活と意識」があると、子どもたちの実態から単元を構想していくという点が伝わる。
- ・「子どもの気持ちに寄り添って」という思いを大切に記入できるとよい。

<シートの改善点>

- ・①「その時期の児童生徒の生活と意識」の欄を設けて、児童生徒の実態把握ができるよう考えたい。
- ・②「〇〇に関してできそうな活動」を「その時期の児童生徒の生活と意識をとらえ取り組みそうな活動」に変更し、活動を決め出す流れを明確したい。

改善版は以下の通りである。



(2) 単元展開シート活用後の事後アンケートから

<よかった点>

- ・目標やつきたい力をはっきりさせることができたので、子どもたちへのめあてが次につながる。
- ・書き出すことで、教科や自立活動とのつながりを見出すことができた。
- ・具体的な目標をそれぞれの活動において細かく考えることができ、より意味のある活動を考えることができた。
- ・個別の指導計画B表の内容と対応しながら、という点は活用できた。

<課題、改善点>

- ・「教科とつながる活動」というと、生活単元学習の考え方からすこしずれてしまうのではないか。
- ・後から活動をつけたして書き入れることが難しい。
- ・毎回一人ずつ1枚1枚書くことは大変だと感じた。1枚に全員分を書き込むことができるとうい。
- ・一人一人作成するものなのでまだ大変さを感じる。

<シートの改善点>

- ・「生活単元学習は、各教科等の内容を習得するための単なる手段ではない。生活上の目標達成のための活動に取り組み、その結果として教科等の内容を習得するものである。」という点から考えると、「教科とつながる活動」より「期待できる教科の内容」とした方が項目として適切なので変更したい。

(3) 単元評価シート活用後の事後アンケートから

<よかった点>

- ・個の活動について、具体的に書き出しやすかった。

<課題、課題>

- ・今時点で期間が短すぎて、まだ評価までいってない。

<シート改善の方向>

- ・評価までできて生活単元学習は完結するので、今後先生方が負担に感じることなく、最後まで活用できるように、展開シートと併せて評価シートの内容や形式の改善を目指したい。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 3種類のシートを作成し、研修講座や校内研修支援で活用してもらうことで、構想から評価まで見通しをもって取組を進めるためのツールを提案することができた。今後の研修講座でも紹介し、シートの活用をしていきたい。
- (2) 生活単元学習の具体的な取組を紹介したことで、シート活用の具体的な目安にもなり、生活単元学習に取り組むイメージがもてると考えられる。

2 課題

- (1) 「その時期の児童生徒の生活や意識の姿」として、シートを実態把握から単元構想できるように考えた。今後は研修講座や校内研修支援で、単元構想のスタートとして、この実態把握の部分を大切にしてシートが活用できるようにしていきたい。

IV 終わりに

生活単元学習とは、教科書や指導書、評価規準があるわけではなく、始めて知的障害学級を担当した先生方にとっては不安なことが多い。多くの事例が専門書等に示されているが、自分のクラスの児童生徒の実態に合わず戸惑うことがある。そうした悩みを研修講座等で多く耳にした。何か先生方の力になれる、生活単元学習に見通しやイメージをもって取り組めるツールはないかと考えたのが今回の3種類シートだった。講座へ来ていただいた知的障害学級の先生方に実際シートを活用してもらい、よりよい改善方向が見えてきたことは大変ありがたかった。

今後先生方から「子どもたちと生活単元学習に取り組むことは楽しい」「子どもたちが生き生きと活動して、自立に向けた力がついてきたことを保護者と喜び合える」ような、生きる力を育む生活単元学習が多くの学校で行われてほしい。そして子どもたちと先生方が意欲的、主体的に日々輝いた学校生活を送ることができることを願っている。

[参考文献]

- (1) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（平成 21 年 6 月 文部科学省）
- (2) 特別支援教育 教育課程 学習手引書 特別支援学校編（平成 22 年 1 月 長野県教育委員会）
- (3) 特別支援学級 ガイドライン （平成 26 年 3 月 長野県教育委員会）
- (4) 名古屋恒彦 著『「特別支援教育「領域・教科を合わせた指導」のABC
どの子にもやりがいと手ごたえのある本物の生活を 』 東洋館出版社
- (5) 太田正己 著「3つのメモが特別支援教育の授業を変える ディグ・ノートによる生活単元学習の探求」
ジアース教育新社
- (6) 全国特別支援学校知的障害教育校長会 編著
「新しい教育課程と学習活動Q&A 特別支援教育 知的障害教育」 東洋館出版
- (7) 全日本特別支援教育研究連盟 編集 特別支援教育研究 2013 年 5 月号 東洋館出版社
連載 子どもが本気で取り組める「領域・教科を合わせた指導」第3回から
名古屋恒彦 著「生活単元学習」展開のポイント（理論編）
- (8) 全日本特別支援教育研究連盟 編集 特別支援教育研究 2013 年 7 月号 東洋館出版社
特集「生活単元学習を極める ～子どもと教師の本気の活動～」から
河野昌水 著「生きる力を育むー 子どものための生活単元学習ー」